



津波ハザードマップ 表面

ハザードマップで 災害に備えましょう

町では、「津波ハザードマップ」と「津波ハンドブック」を今月から各世帯に配布します。

津波ハザードマップは、長万部町を最大クラスの津波が襲った場合に、町内のどこまで水に浸かるのか（津波浸水予測範囲）を色分けし、マップ上に表したものです。マップ表面は海岸部を網羅した図面、裏面は町内の主要な地区を拡大表示した図面となっています。

津波ハンドブックには、地震・津波の知識、事前の準備、避難所ルートマップなどを掲載しています。

万が一の災害に備え、自宅・普段よくいる場所・避難場所・待ち合わせる場所等の位置確認、危険箇所の把握などにお役立ていただき、災害の前に自分の住んでいる地域の状況を自分で知っておくなど、いつ起こるか分からない災害に備えましょう。

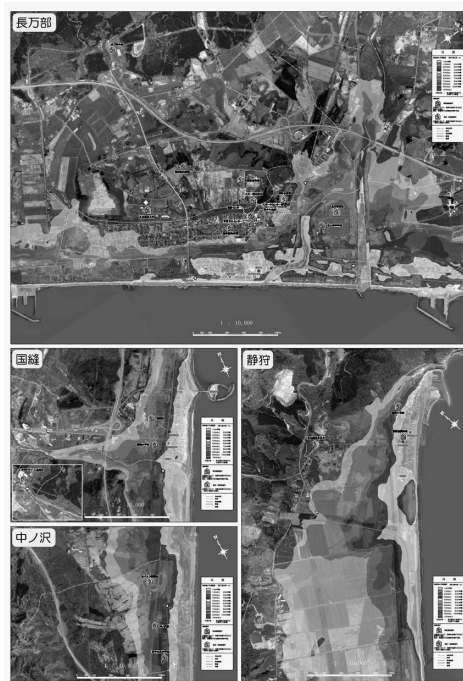
浸水予測範囲内の 避難場所とは

町内の公共施設等を災害時の避難場所として、風水害時と津波襲来時に分けて指定しています。

最大クラスの 津波とは

津波ハザードマップ等の浸水予測範囲は、平成23年までに北海道太平洋沿岸で行われた津波堆積物の各種調査から推定された「最大クラスの津波」による想定結果です。

様々な仮定により推定される地震・津波からのシミュレーション結果であり、今後発生する津波の特徴を正確に予測するものではありません。



津波ハザードマップ 裏面



津波ハンドブック

ています。

今回の想定では、9か所の避難場所が浸水予測範囲の中にありますが、これまでの500年間隔地震による想定では、すべての避難場所が浸水予測範囲の外にありました。

町では、地震の規模や津波の発生状況に応じて避難場所を開設する事になっているため、最大クラスの津波が発生する

※警報を待たず、近くの高台へ。できるだけ車は使わず、徒歩で避難。

① 大きな揺れが収まったら、まず避難。

② 避難場所を決めておこう。

③ 避難経路を決めておこう。

※津波は何回も来るため、6～8時間を目安に、津波警報が解除されるまでは、安全な避難場所にいましょう。

住民のみなさんが適切に避難できるよう、想定される浸水状況や避難場所などの避難に必要な情報を記載しています。津波ハザードマップは見やすい位置にはり、津波ハンドブックは自宅のいつも居る場所に置くなどし、防災意識の高揚に努めましょう。